

専門部会 第二次研究協議会での協議内容

(各学年で分科会を設け、レポート交流からコロナ状況下での、端末をいかした授業の工夫などを話し合った)

<第1学年 分科会の様子>

【レポート交流から】

『シンシユン』シンタの心情曲線の作成『言葉を集めよう』紹介する物を決め、観点を決め、マッピングを行う。『大人になれなかった弟たちに…』個人内思考を深め、全体思考につなげる実践。ジグソー学習。他の戦争文学との比較 共通点を見つけ出す。『詩の世界』「カムチャッカってどこだろうね？」等発問の工夫で地図帳を開かせる等教科横断的な学習に結びつけている。『思考のレッスン1』ICTを手段として使う。持続可能なもの。『漢字の成り立ち』小中一貫の中30人小12人。教室に42人くらい小学生にうまく教えたいという思いが主体性を生む。教えたい気持ちは誰しもある。

▼全体的に、主体性を育む教材・アイディアを授業に生かしていた。文学教材・古典・言語・話す・聞く等、どの教材でもICTを使うことが目的ではなく、どのような場面でICTを使うのかということを考えていく必要がある、という議論になった。

<第2学年 分科会の様子>

【レポート交流から】

『モアイは語る』生徒が本文をもとに自分で考える時間を大切にしている。生徒の考えを共有し、思考の手助けをするツールとしてタブレット端末を活用している。『クマゼミ増加の原因を探る』「記述と対話」の難しさを感じている。活動における指示語を大切に取り扱い、根拠や仮説などを丁寧に確認している。生徒用のデジタル教科書が使いやすい。本文のコピーができるため、短時間で確認できる。ピクトグラムの活用も効果的である。まとめ作業を家庭学習にも応用させていきたい。『生活体験文』「先生が楽」「生徒も楽」「楽しんで身に付くデジタル素晴らしい」もちろん、百文字作文や視写などのアナログ教材なども大切にしていきたい。『走れメロス』Jamboard (思考ツール、ディベート用紙) やForms (結果投票・感想) を使ってディベートを行った。『聞き上手になろう』自分のインタビューを録画し、動画を客観的に確認することで、話し方や表情、目線などに意識を向けて改善することができた。『短歌甲子園』「短歌を味わう、親しむ」の学習後、短歌の制作・発表・批評を行った。楽しみながら短歌の魅力や言葉の持つ価値を認識することができた。『字のない葉書』話し合いマニュアルの活用や、思考ツールを取り入れ、自分の考えを整理したり補助したりするだけでなく、話し合い活動の場面でも、自他の考えをまとめやすくするような工夫を行う。『故郷』実技・理論研で学んだ質問づくりの試行。読めていなかった部分について生徒同士で確認したり、作品にはない部分を想像して盛り上がった場面が見られた。『盆土産』グループやグループ以外の人の意見を聞いたり相談したりしながら、指定された言動に関わる表現や描写・意味を本文から探すことができた。

<第3学年 分科会の様子>

【レポート交流から】

『俳句』想像が広がる作品が多かった。鑑賞を楽しむことができた。ICT活用に挑戦しているが、他の人の実践例を知りたい。好きな季語を使って俳句を創作。スプレッドシート活用。光村の情報誌を参考に授業。ICT活用。実際に歳時記を手にとって季語を調べさせる。生徒にとって新鮮。『論語』表現力をつける授業。論語の意味を説明させるときに、説明の対象を限定(自分より年下の子)し、伝わりやすい表現を考えさせる。Google Forms やスプレッドシートなど、日ごろからICTを活用するようにしている。

▼俳句の実践が多かった。授業者の北條先生も俳句の授業を公開してくださったので、色々な視点から俳句の授業について考えを深めることができた。ICTを使った実践が多く発表され、こちらも様々なアイディアを得ることができた。ICTを活用すると、国語が苦手な子どもも抵抗なく自分の考えを打ち込むことができる。しかし、書籍の歳時記や図書室の本など、アナログな手段も生徒にとっては新鮮である。バランスを見ながら使い分けることが大切。

